

続・アメリカ英語とイギリス英語の慣用句の相互浸透について
－オンライン・コーパスを活用して－

伊 藤 一 正

北海道情報大学

A Sequel to Mutual Permeation of American and British Idioms

－A Survey Using Online Corpora－

Kazumasa ITO

Hokkaido Information University

平成30年 3 月

北海道情報大学紀要 第29巻 第2号別刷

〈論 文〉

続・アメリカ英語とイギリス英語の慣用句の 相互浸透について

—— オンライン・コーパスを活用して ——

伊藤一正*

A Sequel to Mutual Permeation of American and British Idioms

—— A Survey Using Online Corpora ——

Kazumasa ITO*

要旨

本稿は、アメリカとイギリス各々で発祥した慣用句が互いの国への程度浸透しているかを、イギリスの小説 *Harry Potter* シリーズ全7巻で調査した伊藤(2016)の続編である。第8巻(2017年発行)について、オンライン・コーパスを活用して前回と同様の調査方法で実施した。その結果、第8巻においてもアメリカで発祥しイギリスで定着した慣用句がきわめて多いことが再確認された。さらに、GBNVのようなコーパスに多義語を打ち込む際、慣用句に使用頻度の高い共起表現を加えることで、調査対象の意味に絞ることができることも示された。

Abstract

This paper is a sequel to the preceding one under the same title written by Ito (2016). The newly-published 8th volume of the *Harry Potter* series was examined in terms of mutual permeation of American and British idioms. The results obtained in Ito (2016) were reconfirmed by using online corpora. It was also found that, when the idioms examined are polysemous, narrowing them down to a specific meaning can be done by adding frequent co-occurring words to the target idioms.

キーワード

コーパス (corpus, corpora), 慣用句 (idiom), 相互浸透 (mutual permeation),
使用頻度 (frequency of use), 共起 (co-occurrence)

*北海道情報大学情報メディア学部准教授 Associate Professor, Department of Information Media, HIU

1 はじめに

伊藤(2016)^[1]はイギリスの小説 *Harry Potter* シリーズ7巻で、アメリカ英語とイギリス英語の慣用句の相互浸透性について分析したが、ほぼ同時期に、10年ぶりに第8巻となる新作が発表されたため、それについて同様の分析を今回実施した。

今回の新作はもともとはイギリス国内で上演する演劇作品として書かれたものである。原作は J・K・ローリング(J.K.Rowling), 英国人舞台監督のジョン・ティファニー(John Tiffany), そして英国人の脚本家ジャック・ソーソン(Jack Thorne)の3人によるもので、ジャック・ソーソンがそれを脚本化して書籍販売した。今回の筆者の調査は、2017年にペーパーバック版として(初版本は2016年発行)英国で発行された *Harry Potter and the Cursed Child —Parts One and Two PLAYSRIPT—*^[2]によるものである。

2 先行研究

伊藤(2016)において松田(1975)^[3](1983)^[4](1984)^[5](1985a)^[6](1985b)^[7](1987)^[8]による先行研究を示した。イギリス英語とアメリカ英語の慣用句の相互浸透について、松田が実施した調査は大規模かつ網羅的で、しかも正確である。コーパス言語学が緒についたばかりの時代に書物を丹念に調べ上げ、慣用句の出現時期を特定していった松田の研究は、Google Books Ngram Viewer(以下,GBNV)のようなビッグデータ(big data)から導き出される結果と大きな差はない。今回の著者の調査も松田の研究に負うところが大きい。

3 調査方法

伊藤(2016)が用いた調査方法と全く同じである。すなわち、これまで読んだ書物や辞書等で米国起源とされていた慣用句をコーパス(GBNV)に打ち込んで確認をしながら調査を進めた。慣用句の出現時期が英米で重なる場合は書籍による確認作業が必要だが、そのような例は全くなかった。打ち込んだ文字列は米国は(調査する慣用句:eng_us_2012), また英国の場合は(調査する慣用句:eng_gb_2012)である。

それぞれのグラフの青線は米国の、赤線は英国の調査対象の慣用句の使用頻度を表している。

4 米国起源で英国においても使用される慣用句

4-1 a chip on one's shoulder

この慣用句は「けんか腰である^[9]」を意味するが、その由来について *American Heritage Dictionary of Idioms*(以下, AHDI)は1830年5月20日付けの米国の新聞 *Long Island Telegraph* の中でそれについて書かれている記事の一部を紹介している。

When two churlish boys were determined to fight, a chip would be placed on the shoulder of one and the other demanded to knock it off at his peril^[10].

つまり、男二人がけんかを始めるとき、一人が自分の肩に木片をのせ、相手がそれをはらった瞬間にけんかが始まったのがこの慣用句の由来としている。

AHDI は 1800 年代の初めにこのイディオムが出現したと記しているが [11], GBNV によると出現したのは 1880 年ころであることが図 1 から看取できる。AHDI と GBNV との出現時期に関する差異がこれほど大きいのは極めて稀である。今後, AHDI には初例の出所を明示することが求められる。

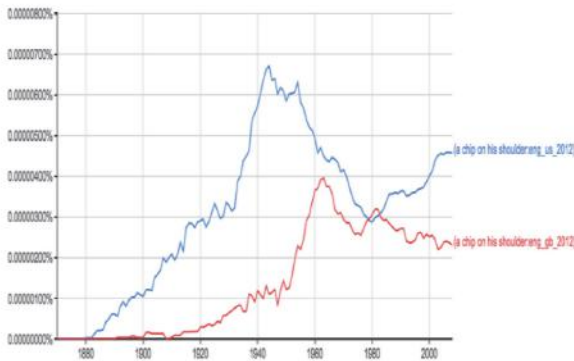


図 1 a chip on his shoulder の英米の出現時期

以下は *Harry Potter and the Cursed Child—Parts One and Two PLAYSRIPT—* において a chip on his shoulder が使用されている会話文の抜粋である。図 1 以降のグラフの下に記されている例文は同書からの引用であるが, それ以外の出典についてはその都度に表記されている。

(1) ALBUS: I don't have anything to prove to my dad. I've got to save Cedric to save Rose. And maybe, without you holding me back, I can make a proper go of it.

SCORPIUS: Without me? Oh poor Albus Potter. With **his chip on his shoulder**. Poor Albus Potter. So sad^[12].

4-2 cry on one's shoulder

この慣用句は, 本作品では a shoulder to cry on という形を使っているが, 「人に慰め[同情]を求める^[13]」を意味する cry on someone's shoulder が名詞化 (nominalization) したもので, 「同情を求める[悩みを打ち明ける]相手^[14]」を意味するようになった。AHDI は 1930 年代終盤に cry on someone's shoulder が出現したと記しているが, 図 2 からはそれ以前の 1900 年ころであることが読み取れる。

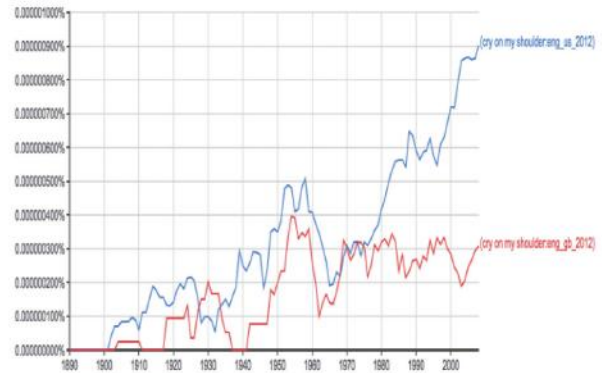


図 2 cry on my shoulder の英米の出現時期

(2) DELPHI: You're best friends. Every owl he sends I can feel your absence. He's destroyed by it.
 SCORPIUS: Sounds like he's found a **shoulder to cry on**. How many owls has he sent you now^[15]?

4-3 get it

慣用句 get it が「理解する」という意味を持つようになった経緯について AHDI が次のように紹介している。

This synonym for CATCH ON was popularized during the 1980s through a televised political debate in which presidential nominee Ronald Reagan told

ALBUS: Yes. You did.

HARRY: Albus, you just know how
 to **get under my skin**...[22]

4-5 go nuts

堅果や殻斗を意味する *nut* を使った慣用句は数多い。人間の精神的な状態を表すことが多いのは、その形状が頭と似ているからであろうと *Brewer's Dictionary of Phrase and Fable* は記している[23]。「気がふれる, 熱狂する[24]」を表し, *McGraw-Hill's Dictionary of American Idioms and Phrasal Verbs* は *go crazy* と同じ意味を表す慣用句として記載している[25]。1910 年ころから米国で使われ始め, 10 数年後にイギリスでも使用されたことが図5から明確に看取できる。

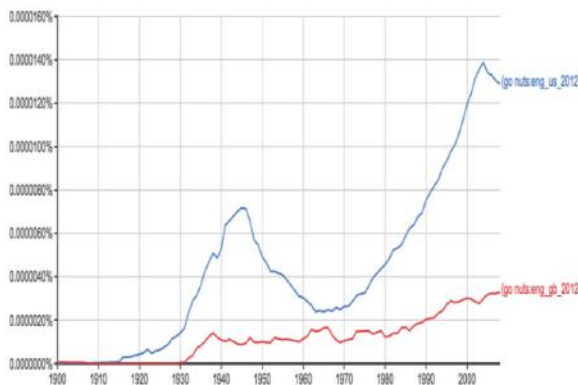


図5 go nuts の英米の出現時期

(6) ALBUS: Because I know it'll be full
 of Hogwarts students.

ALBUS *screws up the paper*.

HARRY: Just give it a go – come on
 – this is your chance to **go nuts**
 in Honeydukes without your
 mum knowing – no, Albus, don't
 you dare[26].

4-6 hold on

元来「つかまっている, 握っている」の意を表す *hold on* が米国において「待つ」という語義を持つようになったのは 1800 年代半ばであると AHD1 は記している[27]。「待つ」という意味だけで使われている場合の使用頻度を抽出するために *hold on for another* と打ち込んだグラフが図6である。形容詞 *another* の後ろには *minute, year, two weeks, day* など時間を表す語(句)を伴う。図6の初出年代が 1840 年と 1850 年の間と見て取れるため, AHD1 の記述と一致している。

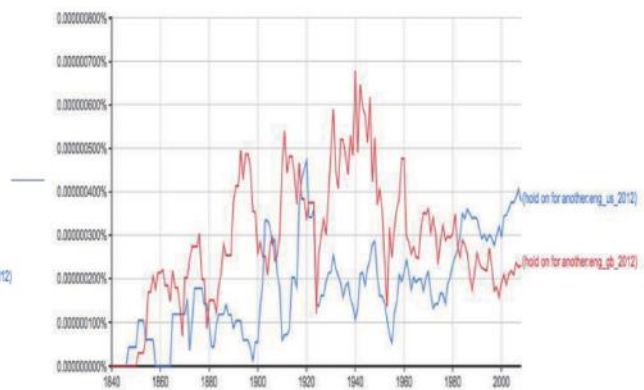


図6 hold on for another の英米の出現時期

(7) AUNT PETUNIA: I knew we made a
 mistake coming here. Vernon.
 Vernon. There's nowhere we can
 hide. Not even a lighthouse is far
 enough away!

There's another LARGE BOOM.

UNCLE VERNON: **Hold on. Hold
 on.** Whatever it is, it's not coming
 in here[28].

4-7 like I say

接続詞 *as* が米国では *like* に置き換

わることが多い。特に口語表現では多用される。ジーニアス英和辞典^[29]と *Longman Dictionary of Contemporary English*^[30]では, like I said(say)を慣用表現として表記している。「私が前に言った[前から言っている]ように^[31]」の意味を表す。GBNV に like I say を打ち込むと, ..and the like. I say...のように, 主に 1800 年代の文章で like と I の間にピリオドやセミコロンが入ったものが大量に抽出されるため, like I said を打ち込んだ。図 7 から読み取れるように, 米国において 20 世紀に入ってから使われだした表現である。

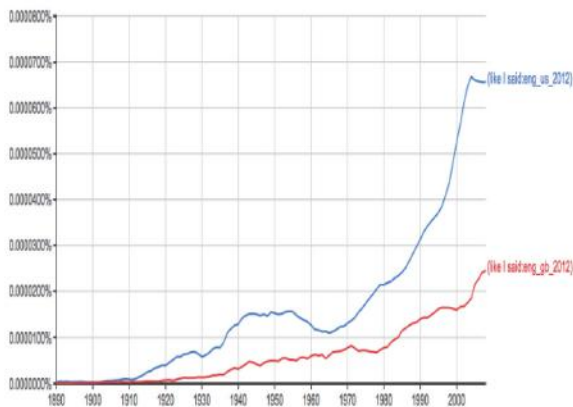


図 7 like I said の英米の出現時期

(8)HARRY: I need to say sorry to you and sorry to Albus, will you give me that chance?

DRACO *arrives behind them with a bang of soot.*

PROFESSOR MCGONAGALL:

Draco?

DRACO: He needs to see his son, and I need to see mine.

HARRY: **Like I say** – peace – not war^[32].

4-8 make a go of it

この慣用句は AHDI によれば 1877 年に最初に記録されたと記されている^[33]。19 世紀の米国の言語学者 John Russell Bartlette によりちょうど同じ年に発行された *Dictionary of Americanism: A Glossary of Words and Phrases* に "make a go of it" i.e. make it succeed と記載されており^[34], Bartlette 自身が著した 1859 年版には記されていない事実から, さらに図 8 でも 1860 年と 1880 の間でグラフ線が出現していることから, 出現はほぼこの時期であろう。「<事業などを>成功させる^[35]」の意味である。



図 8 make a go of it の英米の出現時期

(9)ALBUS: I don't have anything to prove to my dad. I've got to save Cedric to save Rose. And maybe, without you holding me back, I can **make a proper go of it**.

SCORPIUS: Without me? Oh poor Albus Potter. With his chip on his shoulder. Poor Albus Potter. So sad^[36].

4-9 make it

この慣用句は第 8 巻では「到着する, <会などに>でる^[37]」の意味で使わ

れている。「成功する」という意味でも多用され、区別を明確にするため共起表現を使い、*make it on time*（時間に間に合って着く）を打ち込んだ。例(10)では、会合に間に合った様子を明確に読み取ることができる。

AHDI は 1900 年ころ出現したと記しているが[38]。図 9 からほぼその時期であることが看取できる。

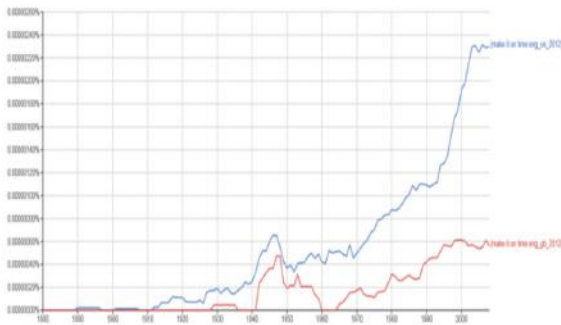


図 9 *make it on time* の英米の出現時期

(10)HERMIONE: Order. Order. Do I have to conjure silence? (She pulls silence from the crowd using her wand.) Good. Welcome to this Extraordinary General Meeting. I'm so pleased so many of you could **make it**. The wizarding world has been living in peace now for many years[39].

(11)SCORPIUS: They can't see you, Albus, it might damage time, and we're not doing that – not this time.

ALBUS:But this means, she hasn't . . . we've **made it** . . . she hasn't . . .[40]

4-10 *run a book*

この慣用句はリーダーズ英和辞典

と AHDI の両方に記載がなく、ランダムハウス英和辞典と *Dictionary of American Slang* にはアメリカの俗語として載っている。*Dictionary of American Slang* による定義を以下に示す。

To have credit or a charge account with a store, esp. a neighborhood grocery store[41].

つまり、近所の店につけをすることを意味する。図 11 を見ると 1890 年ころに米国で出現しているが、現在はイギリスのほうが使用頻度が高くなっている。

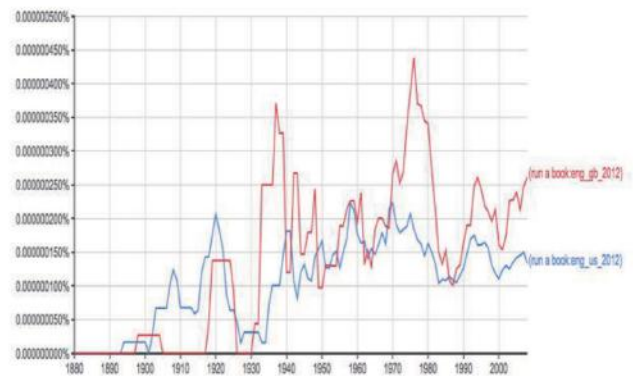


図 11 *run a book* の英米の出現時期

(12) RON: You know, Gin, we always thought there was a chance you could be sorted into Slytherin.

GINNY: What?

RON: Honestly, Fred and George **ran a book**[42].

4-11 *stick around*

図 12 を見るとこの慣用句は米国で発祥してほぼ 10 年後にイギリスで使われはじめたことが分かる。「そば[そ

こら]で待つ[43]」を表し口語表現として記載されているが, *Dictionary of American Slang* には俗語として載っている[44]。図 12 が示すような 1970 年ころからの米国における急激な使用頻度の上昇は、この慣用句が日常会話で一般的に使用されるようになり急速に広まったことを意味すると推測される。AHD1 は 1900 年代初期に出現したと記しているが[45], 図 12 とほぼ一致している。

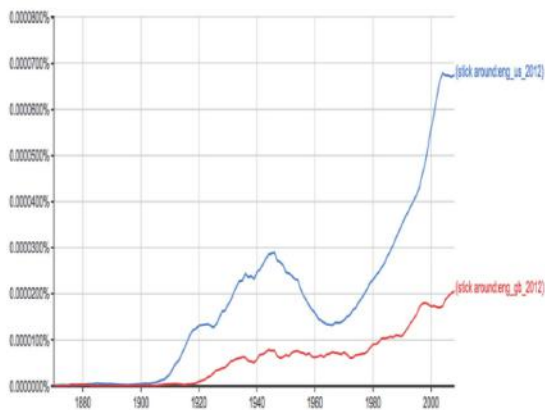


図 12 stick around の英米の出現時期

(13)DELPHI: I was rubbish – and then something clicked. And it will for you too. Not that I’m a super witch or anything but I think you’re becoming quite some wizard, Albus Potter.

ALBUS: Then you should **stick around** – teach me more—

DELPHI: Of course I’m **sticking around**, we’re friends, aren’t we?

ALBUS: Yes. Yes. Definitely friends. Definitely[46].

5 米語に入った英国起源の慣用句

5-1 blow one’s own trumpet

米国では図 13 の緑のグラフ線が示

すように **blow one’s own horn** として使われるが、元来はイギリスで **blow one’s own trumpet** として発祥した慣用句である。図 13 を見ると、イギリスで使われ始めてまもなく米国においても同じ表現が使用されたが、その後、**trumpet** が **horn** に置き換わったのが読み取れる。「自画自賛する, 大ぼらを吹く[47]」という意味を表す。

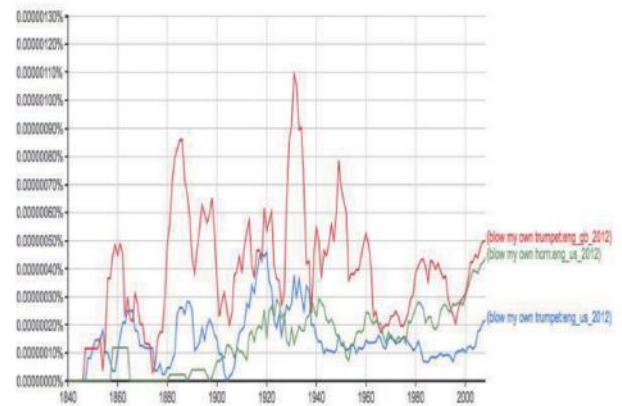


図 13 blow my own trumpet の英米の出現時期

(14)RON: Then I would like to – I think I should be him. I mean, it won’t be – exactly nice being Voldemort – but without wishing to **blow my own trumpet** – I am probably the most chilled out of all of us and... so maybe transfiguring into him – into the Dark Lord will do less damage to me than – any of you more – intense – people[48].

5-2 give it a go

米国と英国で使われていて、互いの国で通じない単語を収録した辞典である *The Hutchison British/American Dictionary* によれば、英国では名詞の go は a try, つまり「試み」を表す[49]。したがって、give it a go は「いっちょやってみる[50]」を表す。実際には図

14 が表すように米国でも使用頻度は低くなく、例 (16) のように米国の人気テレビドラマでも使われている。

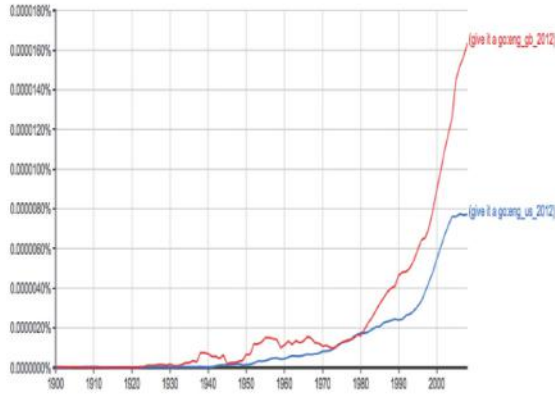


図 14 give it a go の英米の出現時期

(15)ALBUS: Because I know it'll be full of Hogwarts students.

ALBUS *screws up the paper.*

HARRY: Just **give it a go** – come on – this is your chance to go nuts in Honeydukes without your mum knowing – no, Albus, don't you dare^[51].

(16)Owen: It's definitely... very quick.
 But I want to give to you and Logan something that I have never been able to give you until now -- a family.
 Bridget: (Laughs)
 Owen: I want the three of us... the three of us -- you, me, and the little guy to move in together.
 Bridget: Really?
 Owen: Let's **give it a go**. Let's...
 Bridget: (Sighs)
 Owen: Come on. Let's be a family together^[52].

5-3 give someone the creeps
 イギリス英語のスラングを収録した *Britslang* は creeps を次のように定義している。

A feeling of repugnance or fear, the unease felt in the presence of a 'creepy person' or in a spooky place^[53].

つまり、気味の悪い人間 (creepy person) がいたり、幽霊が出そうな場所で感じる不快感や不安を表す。例 (17)と例(18)からそうした感情を感じ取ることができる。例(18)は例(16)と同じ米国のテレビ番組の中の一場面である。図 15 から現在の米国における使用頻度は、発祥の国イギリスより高いことが分かる。

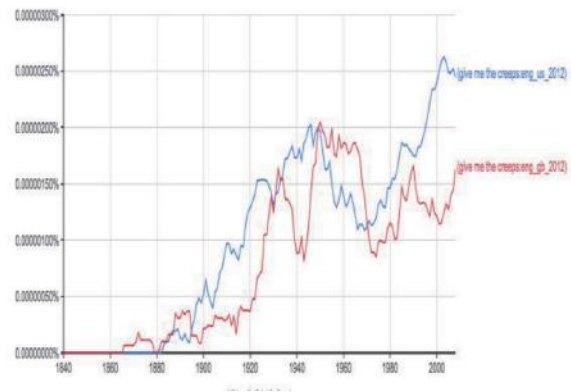


図 15 give me the creeps の英米の出現時期

(17)HARRY: I don't like small spaces and – I've never told anyone this but I don't much like – (*he hesitates before saying this*) pigeons.
 ALBUS: You don't like pigeons?
 HARRY:(*he scrunches up his face*) Nasty, pecky, dirty things. They **give me the creeps**^[54].

(18) Amber: It's gotta be really hard for you.

Thorne: Yeah, but you know what? I could live with it if Ridge deserved it, but he doesn't. Ridge has been given everything to him on a silver platter by my father, even though he's betrayed him. It's like... (Scoffs) Ridge can do no wrong in my dad's eyes. (Chuckles)

Amber: Hey, I got an idea. All these, uh, zombies and vampires are startin' to **give me the creeps** a little bit. What do you say you and I, we get outta here and, uh, go some place a little more quiet, hmm_[55]?

6 終わりに

今回の調査対象となったのが *Harry Potter* シリーズ第 8 巻の一冊だけということもあり、GBNV でグラフ表示した米国起源の慣用句が 11 例、英国起源のそれが 3 例の計 14 例において比較検討した。米国起源が伊藤 (2016) の 19 例に比して約半数であるが、英国起源が前回同様 3 例であることから米国から英国への浸透性の高さは再確認できた。

今回は 21 世紀に入ってから米国で発祥した慣用句も使用されているのではないかと推測していたが慣用句では明確にそれを示すものは見られなかった。しかし、語彙においては英国に流入して同化の過程にあると思われる 1 つの例に出会った。第 1 巻から第 7 巻まで一度も使われなかった *geeky* である。

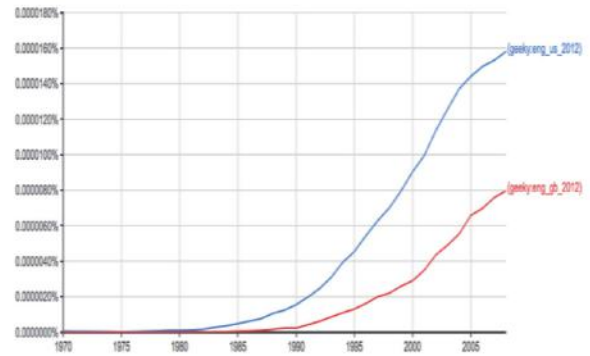


図 16 *geeky* の出現時期

図 16 が示すように、「<人間的に>変わった」を意味する米国発祥の俗語が 21 世紀への変わり目の前後から急激に英国でも使われだした。この語彙の名詞形である *geek* が第 8 巻では 2 回、*geekiness* は 1 回使われている。これは単に *Harry Potter* シリーズの作者 J.K.Rowling が第 1 巻から 7 巻まで *geek* あるいは *geekiness* を使わなかったためなのか、それとも第 8 巻の共著者である John Tiffany と Jack Thorne のいずれかが用いたのかは確かめる術はないが、3 人とも英国人であることから、ごく最近の米語の英国流入の勢いを感じさせる事例と言えよう。

最後に、本調査では *get it, make it*, そして *hold on* のような多義語から、調査する語義の使用頻度だけを抽出する方法として、GBNV に打ち込める単語数が 5 語までという制約の中で、それらの慣用句とともに高い頻度で使用される共起表現を加える方法を使った。調査する慣用句が語義を多くもつ場合に極めて有効である。

使用したオンライン・コーパス

Google Books Ngram Viewer. (2013)

<<https://books.google.com/ngrams>>

(2017 年 11 月 10 日最終アクセス)

Davies, Mark. (2016) “New Corpus of American Soap Operas”

<<http://corpus.byu.edu/soap/>>

(2017年11月10日最終アクセス)

引用文献

- [1]伊藤 正(2016)「アメリカ英語とイギリス英語の慣用句の相互浸透性について—オンライン・コーパスを活用して」『北海道情報大学紀要』第28巻, 第1号, 平成28年11月
- [2]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne, Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed Child—Parts One and Two: PLAYSRIPT—*, London: Sphere.
- [3]松田裕(1975)『米語の衝撃—辞書の嘘—』大修館書店
- [4]松田裕(1983)「米語の衝撃再考(Ⅰ)—地域表示の再検討—」『英米文学語学研究』第54号, 関西学院大学, pp.83-125.
- [5]松田裕(1984)「米語の衝撃再考(Ⅱ)—地域表示の再検討—」『英米文学語学研究』第58号, 関西学院大学, pp.143-187.
- [6]松田裕(1985a)「米語の衝撃再考(Ⅲ)—地域表示の再検討—」『外国語外国文化研究』第6号, 関西学院大学, pp.1-85.
- [7]松田裕(1985b)「“A low profile”の軌跡」『時事英語学研究』第24号, 日本メディア英語学会, pp.15-22.
- [8]松田裕(1987)『米語のインパクト—当てにならない辞書の表示—』大修館書店
- [9]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.420.
- [10]Ammer, Christine.(2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms—American English Idiomatic Expressions&Phrases—*, 2nd edition, Boston: Houghton Mifflin Hartcourt, p.81.
- [11] Ibid., p.81.
- [12]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne, Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed Child—Parts One and Two: PLAYSRIPT—*, London: Sphere. p.146.
- [13]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.2170.
- [14]Ibid., p.2170.
- [15]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne, Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed Child—Parts One and Two: PLAYSRIPT—*, London: Sphere. p.137.
- [16]Ammer, Christine. (2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms—American English Idiomatic Expressions&Phrases—*, 2nd edition, Boston: Houghton Mifflin Hartcourt, p.166.
- [17]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.980.
- [18]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne, Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed Child—Parts One and Two: PLAYSRIPT—*, London: Sphere. p.30.
- [19]Ibid., p.98.
- [20]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.2199.
- [21]Wentworth, Harold. and Flexner, Stuart Berg.(eds)(1975) *Dictionary of American Slang*, New York: Thomas Y. Crowell Company: p.482.
- [22]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne, Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed Child—Parts One and Two: PLAYSRIPT—*, London: Sphere. p.41.
- [23]E Vance, H.Ivor.(1989) *Brewer's Dictionary of Phrase and Fable*, 4th edition, Harper and Row: New York.p.787.
- [24]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)

- 『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.1645。
- [25]Spears, Richard. A.(2005) *McGraw-Hill's Dictionary of American Idioms and Phrasal Verbs*, McGraw Hill: New York. p.260.
- [26]Rowling, J.K., Tiffany, John and Thorne, Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed Child—Parts One and Two: PLAYSRIPT—*, London: Sphere. p.25.
- [27]Ammer, Christine.(2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms—American English Idiomatic Expressions&Phrases—*, 2nd edition, Boston: Houghton Mifflin Hartcourt, p.214.
- [28]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne, Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed Child—Parts One and Two: PLAYSRIPT—*, London: Sphere. p.42.
- [29]小西友七・南出康世(編)『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店, p.1139。
- [30]*Longman Dictionary of Contemporary English:New Edition* (2012)Pearson Education Limited. Printed in China. p.1014.
- [31]小西友七・南出康世(編)『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店, p.1139.
- [32]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne, Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed Child—Parts One and Two: PLAYSRIPT—*, London: Sphere. p.155.
- [33]Ammer, Christine.(2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms--American English Idiomatic Expressions&Phrases—*, 2nd edition, Boston: Houghton Mifflin Hartcourt, p.283.
- [34]Bartlett, John Russel. (1877) *Dictionary of Americanism : A Glossary of Words and Phrases*, Little, Brown and Company: Boston. p.247. Also available at <https://archive.org/stream/dictionaryameri05bartgoog#page/n308/mode/2up/search/go>
- [35]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.1002。
- [36]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne, Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed Child—Parts One and Two: PLAYSRIPT—*, London: Sphere. p.146.
- [37]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.1444。
- [38]Ammer, Christine.(2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms—American English Idiomatic Expressions&Phrases—*, 2nd edition, Boston: Houghton Mifflin Hartcourt, p.286.
- [39]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne, Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed Child—Parts One and Two: PLAYSRIPT—*, London: Sphere. p.57.
- [40]Ibid., p.263.
- [41]Wentworth, Harold. and Flexner, Stuart Berg.(eds)(1975) *Dictionary of American Slang*, New York: Thomas Y. Crowell Company. p.437.
- [42]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne, Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed Child—Parts One and Two: PLAYSRIPT—*, London: Sphere. p.11.
- [43]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.2301。
- [44]Wentworth, Harold. and Flexner, Stuart Berg.(eds)(1975) *Dictionary of American Slang*, New York: Thomas Y. Crowell Company. p.520.
- [45]Ammer, Christine.(2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms—American*

- English Idiomatic Expressions&Phrases—*,
2nd edition, Boston: Houghton Mifflin
Harcourt. p.428.
- [46]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne,
Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed
Child—Parts One and Two: PLAYSCRIPT—*,
London: Sphere. p.99.
- [47]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)
『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社,
p.254。
- [48]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne,
Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed
Child—Parts One and Two: PLAYSCRIPT—*,
London: Sphere.p.290.
- [49]Moss, Norman.(1990)*The Hutchinson
British/American Dictionary*. London:
Arrow Books. p.131.
- [50]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)
『リーダーズ英和辞典』第3版 研究
社, p.1002。
- [51]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne,
Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed
Child—Parts One and Two:
PLAYSCRIPT—*, London: Sphere. p.25.
- [52]Davies, Mark. (2016) “New Corpus of
American Soap Operas”
<<http://corpus.byu.edu/soap/>>
Bold and Beautiful (2011-10-19)
- [53]Puxley, Ray.(2003) *Britslang:An
uncensored A-Z of the people's language,
including rhyming slang*, London: Robson
Books. p.120.
- [54]Rowling, J.K., Tiffany, John. and Thorne,
Jack.(2017) *Harry Potter and the Cursed
Child—Parts One and Two:
PLAYSCRIPT—*, London: Sphere. p.316.
- [55] Davies, Mark. (2016) “New Corpus of
American Soap Operas”
<<http://corpus.byu.edu/soap/>>
Bold and Beautiful (2011-10-31)